



鎌田 昌弘

勤務先：

(株)アルファ水工コンサルタンツ 技術部技術2課

〒063-0829 札幌市西区
発寒9条14丁目 516-336

TEL 011-662-3331

FAX 011-662-3442

E-mail : kamada@ahec.jp

専門：水産部門（水産土木）

自己PR：私は、1972年に札幌で生まれ、高校までずっと札幌で暮らし、大学時代に昔は鉄の町として、今では焼き鳥で有名な室蘭で過ごしました。大学の専門は、材料物性工学で、毎日 -20°C の低温室で氷を材料とした塑性変形の研究をしていました。そのような研究をしていた私が、何故、水産分野の仕事を行い、そして資格を取るにまで至ったのか、きっかけは自分の中でもはっきりしませんが、恐らく大学時代にあったと思います。

大学時代といえば、酒とアルバイトです。言い切ってしまうと、仕送りしていた親に申し訳ないのですが、それがお世辞にも華やかではない室蘭の実情です。生活していた室蘭・登別周辺は、漁師さんが大勢いました。海沿いの居酒屋等は、漁師さんが経営しているところもあり、二千円も出せば新鮮な魚介類が食べきれない程出てきます。

札幌に住んでいた頃は、好きな魚と言えば、マグロのトロなど脂の乗ったものでした。しかし、室蘭の店で美味しいものは、近海で取れたツブ、ソイ、ハタハタといった今まで気にしたことなかった地味な魚で、歯応え、ジューシーさが札幌のとは別物なのです。また、家庭教師のアルバイトで、登別の漁師さんのお宅に伺った際に、頂いたホッキの新鮮なこと。あれから10年たった今でも、嬉しいことに温かい文面の年賀状が届き、漁師さんの家庭の雰囲気とホッキの味が懐かしく思い起こされます。

以上の背景が、入社への直接のきっかけではないと思いますが、漁村への思い出の一つとなり、漁港・海岸等の沿岸域に関わる計画を専門とするようになったと考えております。

受験体験談：前述したように、大学においては、水産、そして土木とは異分野であったため、まず技術士補の勉強に苦勞しました。波の理論などは、大学時代に光学として学んだ部分があり、波長がマイクロメートルから100メートルオーダーになった時の戸惑いはありましたが、ある程度応用可能でした。しかし、魚の生態や、漁法については、全く一からの勉強で、かなり苦勞したことを覚えています。

技術士補を取得し、技術士の勉強を始めた1年目は、何もかも網羅しようと考え過ぎ、得意分野であるはずの経験論文まで発散した内容で試験を受けた記憶があります。2年目は、1年目の反省を踏まえ、仕事を遂行しつつ確保可能な勉強時間を計算した中で、自分の得意分野5割、一般的な事項5割程度に内容を絞って勉強し、結果的には成功に結びつきました。

今後に向けて：水産関係の事業は、従来の量的な充足を確保する整備から、質的な向上を目指す方向に変わりつつあります。そうしたなかで、従来の水産技術者、土木技術者のみでは困難な課題が、山のようにあると考えております。

技術士を取得したことを機に、この場のような様々な技術者と知り合うきっかけを上手く生かし、良いネットワークを形成し、前向きに課題の解決に取り組んでいきたいと考えております。

まだまだ不勉強な部分が多く、ご迷惑をかけることも多いとは思いますが、技術士を取得したこれからは勉強の本番と考え、一生懸命に頑張っていきたいと思っております。

最後に、ご多忙中、経験論文の添削、口頭試験の模擬面接をして頂いた諸先輩の方々に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。